

在宅介護事業・施設介護事業からIoT・AIを使った介護業界の生産性向上、サービス品質の向上を促進

在宅介護事業・施設介護事業から、人材派遣、教育、金融（少額短期保険）、ITシステムまで、介護を多面的に幅広く取り扱うインフィックグループの中核企業。直面した介護現場の課題を解決すべく、産学連携により、IoT・AIを活用した高齢者見守りプラットフォーム「LASHIC（ラシク）」を開発。同社利用のみに留まらず、国内外の介護事業者にも展開を進め、介護業界の働き方改革と生産性向上、サービス品質の向上を促進。また、「LASHIC」により収集したデータを解析する共同研究事業も進めている。

所在地 静岡県静岡市駿河区南町18-1
サウスポット17F
電話/FAX 054-280-7340/054-280-7341
URL <https://infic-g.net/>
代表者 代表取締役 増田 正寿

設立 2002年
資本金 4,000万円
従業員数 124人



人工知能 (AI) で高齢者の離床を予測するサービスにより、見守り安心と効率化

「LASHIC」は、居室内に取り付けられたセンサーから、室内の温度、湿度、照度、運動量、睡眠センサーから心拍等をIoTにより遠隔で可視化し、入居者の離床予測を可能とした。これをふまえて巡回タイミングを最適化することにより、眠りを邪魔することなく、不用意な離床による骨折リスクを回避することができる。さらに、収集したデータを分析することで認知症の傾向や熱中症リスクの通知も可能である。メリット、費用効果は見守り業務の生産性が向上し、夜間の見守り業務の負担軽減による直接人件費の削減があげられる。



「LASHIC」による高齢者見守り

新型コロナ感染拡大が続くなか、地域の単身高齢者にも安心を提供

2020年10月から年末に掛け、長野県大鹿村にて、村役場や地元ケーブルテレビ、大手通信会社等と連携した、地域における高齢者世帯の見守り実証事業を行った。単身高齢者等の自宅に設置した「LASHIC」から得られたデータをAIにより解析し、熱中症のリスクや運動量低下等のリスクを把握。リスクが高い場合には村役場や家族のスマホに通知する仕組。村役場側から高齢者の安否確認も可能。新型コロナウイルスによる感染拡大が続くなか、遠隔から安否を迅速に確認できる新たな枠組みとして注目を集めている。



単身高齢者の見守り実証事業

積極的かつ先進的な経営で、介護業界をリードする地域中核企業

事業領域を拡大するにあたり、大学や異業種との連携や、戦略的なM&Aに取り組むほか、未来を見据えいち早く介護サービスの海外展開検討にも着手するなど、その経営は卓越している。また、地域未来牽引企業にも選定されるなど、地域においても中核的存在。社会福祉法人や静岡市認知症ケア推進センターの運営など、インフィックグループとして社会課題にも積極的に携わるとともに、新卒採用も毎年実施するなど地元の雇用創出に貢献している。また、国内の各地の地域プロジェクトに参画し、需要を開拓している。



介護業界をリードする地域中核企業